

第14回 長良川流域新五流総地域委員会

議事要旨

日 時：令和6年10月18日（金）

9：30～11：30

開催方法：OKBふれあい会館第1棟3階
301（中会議室）

1. 議事

- (1) 「総合的な治水対策プラン」の改定について 【資料1】
- (2) 「流域治水」について
 - ・流域治水の取組について 【資料2】
 - ・岐阜県における流域治水の効果的な推進のための分析レポート(初版)について 【資料3】
- (3) 意見交換（流域治水に関する取組について） 【資料4】

2. 議事要旨

(1) 「総合的な治水対策プラン」の改定について

「総合的な治水対策プラン」の改定について、現行プランによる治水事業の効果や課題を踏まえ、新たな次期短期目標の設定のイメージ、今回の改定のポイント、プラン改定のフロー、及び次期プランのハード対策とソフト対策、長寿命化・耐震化、自然共生川づくりの考え方について説明があった。

新たな次期短期目標の設定は、平成25年度の改定から10年が経過し、短期目標期間が終了したことを受け、目標に対する進捗状況や事業の成果等を整理して課題を認識し、かつ、流域治水対策関連法による新たな取組、脱炭素、ICTを活用したDXの推進などとともに、改定時点では顕在化していなかった様々な事象を含めて、それらの課題への対策について検討し、次期短期目標を設定する。

今回の改定のポイントは、上述の諸課題（事業進捗、流域治水の取組等）、とくに、気候変動への対応も含めてプランの改定を行う点である。

ハード対策の次期プランにおける目標設定の基本は、現行プランにおける改修対象選定の考え方を踏襲することとし、次期プランでも、現行プランで予定した事業のうちの未実施分を改修対象とする。また、前回改定以降に家屋浸水被害等が発生している河川については、現行プランと同様の検討を加え、社会的な変化による事業の実施意義の変

化を考慮して事業実施可否の判断を行う。

ソフト対策の次期プランにおける目標は、これまでの取組の良好な成果を評価し、それらを継続するため、現計画を踏襲する。目標の達成に向けて、流域の市町村とともに、地域住民の防災意識の向上や既存ため池等の有効活用、山林の貯留機能の保全など、流域全体としての取組を行っていく。また、担い手が不足する水防団への支援を行っていく。

長寿命化・耐震化対策の次期目標は、長寿命化対策については、長寿命化計画に基づく予防保全型の維持管理を継続し、耐震化対策については、流域内全施設の耐震化の実施完了を受け、堤防の効果的な耐震対策の検討を進め、河川管理施設の健全性・安全性を保持していくことである。

自然共生川づくりの次期プランにおける目標は、既存の取組の継続及び河川環境に対する職員の意識向上、個別の川づくり目標の課題を見直しながら、環境面の達成指標として引き続き定性的に設定していく。

(2) 「流域治水」について

以下の2点について説明があった。

- ・ 流域治水の取組について、資料2を用いて国、県、市町の主な取組の例が紹介された。とくに、岐阜県他部局における主な取組例として、森林整備や治山施設整備について説明があった。
- ・ 資料3（岐阜県における流域治水の効果的な推進のための分析レポート 初版）を用いて、岐阜県新五流総における本検討の位置づけ、流域と行政界との位置関係、集水域の土地被覆割合に着目した流域タイプ区分、岐阜県下の地域特性に応じた流域治水対策パッケージについて説明があった。

コメント

（藤田委員長）

資料2の森林整備には、「発生区域－非皆伐施業の選択」と記載があるが、山肌を皆伐すると、豪雨時の降雨流出時間が短くなり、流出量が増え、土砂の生産流出も激増しかねない等、下流域にとって非常に厳しい状況を作り出す可能性が高いと考えている。広範囲で継続的に非皆伐として、択伐や間伐を行うのは難しいと思うが、流域治水の観点からは素晴らしい取組であるので、努力していただきたい。

(3) 意見交換（流域治水に関する取組について）

各市町より、それぞれの地域特性についての説明後、流域治水に関して、現在取り組み中の事項や改善・強化したい事項、あるいは、次期プランに追加したい事項について、簡潔に具体的な内容の紹介や説明がなされた。各市町による説明等の概要は以下のとおり。

① 【岐阜市】

- ・ 河川や排水機場等のハード整備を進めている。
- ・ 同時に、水防団員確保の活動として、水防団活動の内容や意義，親しみの持てる組織であることを、市内の大学や企業などでのポスター掲示や市民運動会などの地域行事における水防団からの直接PR等によって、入団希望者の増加を図っていくとともに、団員の負担軽減に向けて、水防団に河川監視用ライブカメラを貸与している。

② 【大垣市】

- ・ 「水防団活動」として、毎年出水期前に水防演習を実施している。
- ・ 「防災リーダーの育成」としてのスキルアップ講座や防災士育成講座のほか出前講座の実施や、「伝統的な浸水対策」としての「輪中生活館」での輪中地域の生活様式の展示などによって、地域防災力の向上、防災意識の向上などを目的としたソフト対策を継続実施していく。

③ 【関市】

- ・ 田んぼダムについて、関市市街地の直上流に広がっている約200haの圃場を対象として現在進めており、令和5年度までに約56haの田んぼダムを整備している。令和6年度も25haを目標に事業を進めていて、将来的には200haの田んぼダムを整備する予定である。
- ・ 危機管理型水位計等について、関市独自でカメラや水位計の設置を数箇所で行っており、避難対応に活用している。
- ・ 今年度、「関市流域治水協議会」を設置し、7月30日に第1回協議会を開催した。今後も、非出水期に年1回程度開催し、進捗状況の確認や対策のフォローアップ等を進めていく。

④ 【美濃市】

- ・ 要検討としている項目については、他自治体の取組等を参考にしていきたいと考えているが、今年度は下水道管理者として、浸水想定区域図の作成を進めている。

- ・ 国の長良川遊水地整備事業について、美濃市にとって一番効果が見込まれる治水対策と見なせるため、事業がスムーズに進められるように地元調整を進めていく。

⑤ 【羽島市】

- ・ 水防演習を通じた水防活動への理解や技術の向上、あるいは、防災コーディネーター養成講座や避難所運営リーダー等を対象とした研修の開催による防災リーダーを育成などにより、住民主体の共助に基づいた防災対策を進めている。
- ・ 要配慮者避難施設の個別計画の作成支援、SNS を活用した官民双方からの災害情報の発信、また、前回委員会で紹介した防災減災条例の内容の実施に取り組んでいる。

⑥ 【美濃加茂市】

- ・ 河川への流出抑制のため、民間の住宅開発については一定の基準で貯留施設整備を推進し、公共施設建設についても同様の対策を継続していく。
- ・ 市内 5 河川の 7 ヶ所に水位計を、8 ヶ所に雨量計を、6 ヶ所に河川カメラを設置しており、国や県の情報と合わせて市民に情報発信している。
- ・ 防災教育として、小学校の総合学習、高齢者のサロンでの出前講座の実施、および、定住自立圏の圏域一体の防災士養成講座実施による防災リーダー育成にも取り組んでいる。

⑦ 【各務原市】

- ・ 現在、市内にある農業用のため池を活用した雨水の流出抑制に取り組みを計画している。貯留量が多いため池、過去に下流で浸水被害があったため池を対象に、ため池の栓を下げて低水管理することで、ため池の空き容量を確保しようと考えているが、この対策には農業者の理解が必要であるため、今後説明会等を行っていく。
- ・ 防災リーダー育成として、防災人づくり講座や防災教室授業の開催を継続していく。

⑧ 【山口市】

- ・ 平成 29 年頃に、県事業により市が管理している準用河川三田又川の流水障害箇所となっていた鳥羽川から新川への伏せ越しの改修が完了したので三田又川の河川改修に令和 2 年から取り組んでいるが、財源に関して課題が残っている。

- ・ 県による鳥羽川の河川改修の進捗に合わせて、支川改修や三田又川と鳥羽川の旧合流点の伏せ越の辺りにある富岡排水機場などでポンプの更新事業を現在精力的に進めている。

⑨ 【瑞穂市】

- ・ 昨年度から市単独で防災士の養成講座を開催しており、地域から推薦された50名の方が受講している。新しく資格を取得した防災士の方々には、フォローアップとして市独自の防災リーダー研修会を受講いただいている。
- ・ その中で、瑞穂市に防災士会を発足させてはとの提案もあり、令和6年6月30日に瑞穂市に防災士会が発足し、防災士の基本理念に沿った組織的な活動が開始された。今後は、各避難所運営協議会の中心的な役割を担うことや、市と一体になった地域の防災減災活動への支援が期待されている。

⑩ 【本巣市】

- ・ 避難確保計画の見直しとして、要配慮者利用施設避における避難訓練の実施を踏まえて、引き継ぎなどの実情に即した、より実効性の高い計画に更新していく。
- ・ 防災行政無線の更新に伴って、令和6年7月に本巣市情報発信アプリ「もとメール」を導入し、避難情報伝達の多重化・多様化を図っている。これにより、どこにいてもスマホで防災行政無線の情報が入手できるようにした。
- ・ 防災力の向上のため、防災士や防災リーダーズを積極的に活用し、地域の防災減災に携わる人材を育成していく。

⑪ 【岐南町】

- ・ 校庭貯留施設の整備は平成20年代の半ば頃まで進められており、現在は水道整備、下水道整備に力を入れて、地域の洪水の軽減に努めている。
- ・ 被害対象を減らす対策として、要配慮者を受け入れる指定福祉避難所を設置するとともに、民間の福祉施設と協定等を締結している。
- ・ 来年度に向けて、アンダーパス等の浸水可能性の高い場所において早い段階で情報収集するために、カメラの設置等を検討している。また、防災リーダー等の育成に、防災訓練時等に検証するなど、力を入れてきている。

⑫ 【笠松町】

- ・ 笠松町長は木曽川右側地帯水防事務組合の管理者を兼任しており、この水防事務組合は、岐阜市、各務原市、岐南町、笠松町からなる15の水防管理団

体で構成されていて、国交省が造成した河川環境楽園の脇にある水防演習堤で、年2回演習及び訓練を実施している。

- ・ 境川流域では約25年前に、校庭貯留施設を2つの小学校、1つの中学校に整備しており、適切に管理してきている。
- ・ 今後気候変動による水害の激甚化、多発化が予想される中で、来年度予算に向けて、汎用性のある移動式の大型排水ポンプの購入を検討している。

⑬ 【安八町】

- ・ 令和5年度までに名神高速道路の法面を利用した一時避難所8ヶ所を整備しており、水害時に一時的に避難できる場所として、周知していく。
- ・ 国のワンコイン浸水センサーの実証事業を受け、町内に9ヶ所にセンサーを設置して、浸水状況をリアルタイムで把握できる仕組みを構築する予定である。
- ・ 導入済みの防災アプリを有効に活用した、迅速かつ円滑な行動を促す仕組みを強化していく。
- ・ 防災リーダー育成について、防災士の育成補助金の創設を検討する。

⑬ 【北方町】

- ・ 消防団が水防団を兼務しており、水防に関する知識の取得・訓練の実施が不可欠となっている。このため、定期的に行われる消防団の活動の中で、消防団や水防団と連携した訓練や知識の取得ができる場を考えている。
- ・ 「自助」「共助」をテーマとした、住民の皆さんが主体となる自主防災訓練を毎年実施している。自治会によってはハザードマップの学習や避難経路の確認による防災知識の普及に取り組んでいるので、防災意識の啓発についてこれらの有効性や課題を踏まえて浸透を図っていく。
- ・ 防災リーダーとして地域における防災行事に積極的に参加・協力をしていただける人材育成を目標に、昨年度から防災士資格の取得支援事業を開始しており、今後活躍、事例等を検証していく。

⑭ 【富加町】

- ・ 水防団活動は消防団が担っており、103人の定員で活動している。富加町では、近年は定員をキープできているという状況にある。
- ・ ため池について、特別な取組はしていないが、本来治水機能があることから、管理を十分に行えば、その機能が発揮されと考えている。しかしながら、現在は、管理が不十分であるために、機能が発揮できていないと思われる。

るので、町職員も協力して、機能が発揮できるような体制づくりに取り組んでいく。

- ・ 今年度、岐阜県の洪水ハザードマップ・チェックリストに沿ってハザードマップの更新を行い、全戸配布をする予定である。
- ・ 防災減災に関わる人材の育成について、防災士養成講座の受講者に、町単独での受講補助を今年度から始めている。

コメント

(岐阜県)

ハード対策は、県の事業進捗に伴って、市町管理の支川や施設の整備が順次実施されているが、対象は限られている。一方、ソフト対策についての各市町の取り組みをみると、多くの市町で「ハザードマップの周知」や「防災リーダーの育成」に取り組んでおり、今後もメインになってくると考えている。住民の方々の安全確保には不可欠の対策であるので、引き続き取り組みを進めていただきたい。

(木曽川上流河川事務所)

市町の方々から流域治水に関わる様々な取組についてうかがうことができたが、長良川流域は水防団活動が非常に重要で、全国的にも有名な活動になっている。また、各市町の発表では「防災リーダー育成」に力をいれている自治体が多く、それに何かのきっかけや自治体の皆様の思いがあるとすれば、気になるところである。

「住宅等の防災改修」や「嵩上げ」について、美濃加茂市が実施している災害危険区域設定が都市計画からの取組である点など、非常に興味深いと思った。

(長良川環境レンジャー協会)

日頃グランドホテル前の河原、河渡橋、藍川橋など、皆さんが来られるところで清掃活動をしています。他県からも多くの人が訪れて水辺に親しんでいる、大変きれいな岐阜県の川を、防災も含めて、きれいで安全な所だということになるように、皆さんも含めて、次の世代に清流長良川を伝える、きれいな川を今後守っていききたいと思います。

(岐阜市水防協会)

資料4では、水防団活動支援、強化、継続実施としている地区が多いが、不可という地区、また要検討という地区の方もかなりあるように思う。

郡上で降った雨は、昔は昼夜をかけて水位を上げたが、最近は3時間から4時間で水が増えるような状況である一方、水防団員については、工作中的のサラリー

マンに活動参加は依頼しにくく、極力団員を増やすことを検討していただきたい
と思っている。

(天神川を考える会)

天神川では、かつての洪水等の問題が改修後全くなり、非常に住みよい環境が
できている。国の管理区間ではあるが、長良川のグランドホテル前の広場の
草が刈られて、とても綺麗になった。長良川などの河川環境面からの活用とい
うことを一度考えていただけるとありがたいと思っている。

3. 全体を通じてのコメント等

以下のコメントがあった。

コメント

(藤田委員長)

各市町におかれては、これまでソフト対策を中心としつつ、しっかりと取り組まれて
きているので、次期プランのメニューの中にもそれらを適切に反映し、特に水防活動も
含め、今後も流域治水対策を進めていただきたいと思っている。

以 上